

～目次～

1. 石巻・現地支援活動報告
2. 災害支援活動協力員募集と寄付金のお願い



1. 石巻・現地支援活動報告

仮設住宅運営管理室との専門職団体の連携

7月22日、佐原会長と草水は仮設住宅運営管理室主催のミーティングに参加してきました。石巻市は、7月1日から新たな部署として仮設住宅運営管理室を設置し、仮設住宅における支援活動のマネジメントを行っていくそうです。災害のフェーズからも仮設住宅における支援は、今後の災害支援の主な活動になっていくと思われま

す。同室は、仮設住宅における専門職の関与の必要性を説き、協力を求めています。

今回は、仮設住宅運営管理室に提出した日本医療社会福祉協会の企画書の骨子をご紹介します。

企 画 書

1. 件 名 石巻市仮設住宅住民および専門職への後方支援
2. 希望する実施場所 石巻市内の仮設住宅 (個別訪問、集会所、サポートセンター等)
3. 予定期間の考え方

①第一段階 平成23年8月1日～平成23年9月末日

②第二段階以降に関しては、実態に合うよう、石巻市のご担当部署と協議しながら公益社団法人の責務を果たすべく検討します。

4. 支援活動の背景と公益社団法人としての活動とその根拠

仮設住宅に入居する被災住民は、仮設住宅に入居することにより、プライバシーのない不便な避難所生活から解放されます。しかし同時に、急に現実に引き戻され計り知れない孤独感や将来への不安に襲われることが多いようです。こうした状況の中で、心身の健康障害が生じたり、極端な行動としては、自死を選ぶ人がでてきたりするようです。避難所は、生活の質という側面から課題が多く、最低限の住環境の保障は迅速に行われるべきことです。急ぐべき支援ですが、適切な支援と並行して行われて、効果がでることだと思われ

ます。当協会の関連学会である日本医療社会福祉学会は、阪神大震災の仮設住宅への支援を行い仮設住宅における支援の重要性について報告しています。(阪神大震災における、孤独死は、300人と報告されています。) また、災害後 PTSD の発症率は、被災体験者で34.7%、支援者で13.4%、と一般の事故の5%を大きく上回るとの報告もあります。

長期間のストレスによる健康障害(心臓疾患の増加、治療中断など)や災害関連死、衛生環境や酷暑による熱中症などの新たな傷病者の増加が予測されます。これらの問題は、保健・医療・介護・福祉や住民それぞれが協働でセーフティネットの形成をしていく必要があると考えます。平時の対応ス

ピードや対応人数、援助プログラムでは対応しきれないと言われていています。予測可能なリスクに対しては、予防策、対応策、再発防止策を講じ、リスクマネジメントをしていくことが重要だと認識しており、石巻市の仮設住宅で暮らす人々への支援をさせていただければと模索中です。医療ソーシャルワーカーは、上記のリスクを踏まえつつも、同様の重みづけとして、住民の健康な面に注目し、それを強化していくことや、引き出されていない住民や地域の強みを引き出していく支援の重要性を意識しています。個別対応を基調としつつも、復興には住民同士のソーシャルネットワークの形成が、極めて重要であると考えます。

多くの被災者の方が、災害フェーズの変化に伴い心身の健康を害することなく、できるだけ健やかにご自身の生活を取り戻していけるよう、微力ではありますが、住民の方々の力を引き出す後方支援をして参りたいと存じます。

5. 活動内容

①. 個別アプローチ

遊楽館退所者へのフォローアップを通じ、要介護者（傷病者）の生活の安定度を確認し、退所利用者の強み・弱み・限界などを共に共有する。

個別訪問による面接アプローチをする。当会単独ではなく、他団体等とのシフトを組み、定例で医療福祉相談をしていくのもよいのではないかと。

②. 集団アプローチ

自治会の形成を支援する意味でも、住民の方々と協力し合って、仮設住宅の集会室等で、茶話会等を開き、日常生活の課題を話し合い、住民同士が協力し合って解決できるようなコミュニケーションの促進役を担う。この場合、漫然と人を集めるのではなく、コミュニケーションの質が重要です。相互作用、交互作用を起こせるような意図的な働きかけとして、ソーシャルワークの一技術であるグループワークを用いる。当会単独ではなく、他団体等との協働も視野に入れる。

③. 地元の専門家への物理的支援（スタッフとしての活動）

石巻市の保健医療福祉関係者を補う必要があれば、支援スタッフとして協力する。

④. 地元の専門家に対するアカデミックサポート（研修会の開催など）

災害支援に必要な面接技術やグループワークの技術等の技術向上に寄与する研修会の企画運営を行っていきます。

⑤保健医療福祉ニーズの把握と調整

仮設住宅の敷地内に相談室（相談コーナーでも可能）を設けることが可能であれば、地域に医療福祉相談室を開設し、仮設住宅の方々に対する、医療福祉相談の対応が可能。受診受療援助、制度紹介、医療機関や社会福祉機関、地域包括支援センターやケアマネジャーとの連携、手続き代行など。

5. 個人情報保護 個人情報については、石巻市の個人情報を取り扱う契約に準じた遵守。

今後は、石巻市の保健・医療・福祉に関連する部課と仮設住宅運営管理室が調整を行いながら、専門職ボランティアに協力要請をするという流れになるそうです。このような管理室が新設されたことで、仮設住宅で暮らす人々の安全を守りつつ、生活の質の確保を目指したいということが伝わってきました。過去の仮設住宅への支援の体験を参考にしつつ、現実に即し、かつ、予見性を持った支援をしていきたいものです。

2011. 7. 22

石巻にて 草水美代子

石巻市より下記の回答をいただきました

石仮住第3号

平成23年7月25日

公益社団法人 日本医療社会福祉協会

会長 佐原 まち子 様

石巻市長 亀山 紘

仮設住宅入居者における支援について（回答）

日頃より、本市の災害復興に向けた支援をいただきありがとうございます。

平成23年7月14日付けでご提案をいただきました「仮設住宅支援」につきましては、継続して専門職等による支援が不可欠でありますことから、ぜひ、ご協力を賜りますようお願いいたします。

なお、当市における保健師活動及び地域包括支援センター等との相互連携が必要でありますことから、下記により調整いただきますようお願いいたします。

記

- 1 訪問実施地区、日程等の詳細については、福祉部仮設住宅運営管理室までご連絡ください。
効果的な支援となりますよう、健康部健康推進課及び介護保険課等の関係機関と調整させていただきます。
- 2 今後、（仮称）仮設住宅サポートセンターを設置する予定ですので、同センターの事業運営・展開とも連携・協力をお願いいたします。
- 3 お問い合わせ先
担当；福祉部仮設住宅運営管理室 栗野
電話；95-1111（内線4763）

2. 災害支援活動協力員募集と寄付金のお願い

① 支援活動協力員 登録人数（7月25日（月）現在）

- ・ 現地支援活動協力員： 名
- ・ 事務所支援活動協力員： ___名 の登録を頂いております

皆様お忙しい中のご参加で人員が不足しております。ご協力頂ける方は下記までご連絡下さい。

日本医療社会福祉協会 災害対策本部（03-3351-5038 又は dsstsw@jaswhs.or.jp） 平日・土・祝 10～17時

※メールでのご連絡の際は、件名に「（現地）または（事務所）災害支援活動協力員希望」とご記載下さい。

② 現地支援活動について

宮城県石巻市の避難所「遊楽館」へ、1日4～5名を目標に派遣を行っています。

- ・ ご自分で車の手配（自家用車・レンタカーなどを手配し、運転出来ること）の出来る方が望ましいです。しかし、複数で行動していますので、運転できない方もご相談くだされば、対応できます。
- ・ 引き継ぎ等の関係により、前後の移動日を含めず、中3日以上活動をお願いしたいと思います。
- ・ できれば1週間来ていただければ、理想的です。

③ 事務所支援活動について

活動日程：月～土、祝日 の 10時～17時 ※半日での参加も可能です

活動内容：主に現地支援活動協力員の派遣調整、現地とのやりとり、電話・メール対応、事務処理が中心です
1日4名を目標にご参加頂いております。

財政的に厳しい状況が続いているため、できるだけ事務所に来やすい方を希望します。事務所協力員に関しては交通費1200円上限と当面させていただきます。多数ご協力をお願いします。

④ 【寄付金の振込口座：郵便振込口座】

資金が底をつきつつあります。助成金にも応募していますが、皆様の更なる協力をお願い申し上げます。

口座名義：日本MSW協会災害支援金

口座番号：00100-1-89515

支店名：〇一九（ゼロイチキユウ）店（019）

口座種別：当座

※他の金融機関からお振り込みいただく場合には下記のようにお願いします。

ゆうちょ銀行 口座種別:当座預金 支店:〇一九(読み方:ゼロいちきゅう)店

口座番号:89515

備考：・お振り込みいただく金額に制限はございません。

・ご自分のお名前とご連絡先をご記入ください。

・お振込手数料は、各自でご負担ください。

・ご協力いただきました寄付の用途については、理事会（2011年3月27日開催）において当協会の行う東日本大震災 災害救援活動に使うことと決定いたしました。

皆様のご協力をお願い申し上げます。

財務担当 副会長 坪田 まほ